

令和2年度 病害虫発生予察情報 第8号 (11月予報)

群馬県農業技術センター
 環境部 発生予察係
 (病害虫防除所)
 TEL 0270-62-1059
 FAX 0270-20-8016

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
野菜類・ 花き類	アブラムシ類	栽培地帯全域	—	並
	ハスモンヨトウ	栽培地帯全域	—	並
トマト・ キュウリ	コナジラミ類	施設栽培地帯全域	—	やや多
キュウリ	褐斑病	施設栽培地帯全域	—	並
	べと病	施設栽培地帯全域	—	並
	うどんこ病	施設栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	—	並
イチゴ	うどんこ病	施設栽培地帯全域	—	並
	ハダニ類	施設栽培地帯全域	—	並
秋冬ネギ	さび病	栽培地帯全域	—	並
	ネギアザミウマ	栽培地帯全域	—	並

(発生時期の—は連続発生)

【主な病害虫の発生予報】

I) トマト・キュウリ

コナジラミ類	発生地域	発生時期	発生量
	施設栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量はトマトで平年並、キュウリではやや多い。
- (2) 今後1か月の気象予報(11月5日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率70%、降水量は少ない確率40%である。

《発生しやすい条件：生育適温20～30℃で、乾燥条件の場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) タバココナジラミは、トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)*¹、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)*²を伝搬するので注意する。本年はトマト黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病の発生がやや多い。発病株を発見した場合は直ちに抜き取り、施設外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) 施設の開口部は全て防虫ネット(目合い0.4mm以下が望ましい)を設置して、施設内への侵入を防止する。
- (3) 多くの植物に寄生するため、ほ場及び周辺の雑草は除去する。
- (4) 黄色粘着板を設置し、成虫の発生状況を把握しながら適期防除を行う。
- (5) 薬剤散布は幼虫が寄生している葉裏に薬剤が充分かかるように行う。また薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- (6) 栽培終了後はすべての株を速やかに枯死させる。株の枯死後、雑草が無い状態で施設を密閉して、コナジラミ類成虫を餓死させる。

*1 トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)によるトマトの病害名：トマト黄化葉巻病

*2 ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるキュウリの病害名：キュウリ退緑黄化病

II) キュウリ

アザミウマ類	発生地域	発生時期	発生量
	施設栽培地帯全域	—	並

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並である。
- (2) 今後1か月の気象予報(11月5日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率70%である。

《発生しやすい条件：生育適温25～30℃》

2 防除上注意すべき事項

- (1) ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそウイルス(MYSV)*を伝搬するので注意する。発病株を発見した場合は直ちに抜き取り、施設外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) 施設の開口部は全て防虫ネット(目合い0.6mm以下が望ましい)を設置して、施設内への侵入を防止する。
- (3) 多くの植物に寄生するため、ほ場及び周辺の雑草は除去する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- (5) 栽培終了後はすべての株を速やかに枯死させる。株の枯死後、雑草が無い状態で1ヶ月程度施設を密閉して、アザミウマ類を餓死させる。

* メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるキュウリの病害名：キュウリ黄化えそ病

Ⅲ) イチゴ

ハダニ類	発生地域	発生時期	発生量
	施設栽培地帯全域	—	並

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並である。
- (2) 今後1か月の気象予報(11月5日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率70%、降水量は少ない確率40%である。

《発生しやすい条件：生育適温(20~30℃)で、晴天が続く乾燥条件の場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 発生量が高密度になると防除が困難となるので、早期発見及び早期防除に努める。また今後は発生しやすい気象が予報されているため注意する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- (3) 天敵を導入する場合は、導入前に防除を徹底し、できる限りハダニの密度を下げる。導入後の薬剤防除は、天敵に影響のない農薬を選択して行う。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
野菜類 野花類	アブラムシ類	—	並	各種トラップへの有翅アブラムシ類の飛来数について、平年を上回った地点もあったが、全体では平年並。
	ハスモンヨトウ	—	並	現在までの発生量は一部でやや多いが平年並。フェロモントラップ調査による誘殺数は平年を上回っている。 施設栽培では施設の開口部に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。施設内で幼虫を確認した場合は初期防除を徹底する。
キュウリ	褐斑病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	べと病	—	並	現在までの発生量は平年並~やや少ない。
	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並~やや少ない。 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
イチゴ	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並。 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
秋冬ネギ	さび病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	ネギアザミウマ	—	並	現在までの発生量は一部でやや多いが平年並。

関東甲信地方 1か月予報

(11月7日から12月6日までの天候見通し)

令和2年11月5日

気象庁 地球環境・海洋部発表

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	10	20	70
降水量	関東甲信地方	40	30	30
日照時間	関東甲信地方	30	30	40

<概要>

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<参考> 11月の前橋地方気象台観測平年値

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1半旬	13.2	9.0	29.0
2半旬	12.4	7.4	29.0
3半旬	11.4	6.7	29.3
4半旬	10.2	6.2	30.4
5半旬	9.2	6.6	31.2
6半旬	8.5	6.9	31.5

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

- ◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>
- ◆ (独) 農林水産消費安全技術センター (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)
<http://www.acis.famic.go.jp/index.htm>
- ◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧 (トラップ調査結果を毎週更新!)
<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>
- ◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針
<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>